

令和2年度第1回日進市総合戦略推進委員会 議事録

日 時	令和2年8月26日(水) 午前9時30分から午前11時45分まで
場 所	日進市役所本庁舎4階 第3会議室
出 席 者	福安克彦、鶴飼宏成、亀倉正彦、山田慎太郎、三村剛、高岡俊彦、堀修、小金澤衣里(敬称略)
欠 席 者	高木伸治、市川耕一(敬称略)
事 務 局	石川達也(総合政策部長)、和田徹(総合政策部調整監)、杉田武史(総合政策部次長兼企画政策課長)、安彦直美(企画政策課課長補佐)、河合一成(企画政策課市政戦略係長)、志水崇法(企画政策課市政戦略係主任)
説明の為に出席した者	近藤伸治(環境課長)、山田和典(環境課主幹)、上川原清人(下水道課長)、大嶺大生(下水道課課長補佐)、渡邊好重(下水道課計画工務係長)
傍聴の可否	可
傍聴の有無	有(7名)
次 第	1 開会 2 委嘱書交付 3 市長あいさつ 4 自己紹介 5 委員長選任・委員長職務代理指名 6 諮問 7 議題 (1) 日進市人口ビジョン及び日進市総合戦略について (2) 地域再生計画(汚水処理施設整備推進交付金)の評価について (3) 日進市総合戦略に掲げる数値目標及びKPIの現状値について (4) 主要事業の進捗状況について ・令和元年度取組実績及び令和2年度取組予定 (5) 第1期日進市総合戦略の総括について 8 その他 企業版ふるさと納税について 9 閉会
配付資料	資料1 総合戦略推進委員会設置条例及び総合戦略推進委員会施行規則 資料2 日進市人口ビジョン・総合戦略について 資料3 第6次総合計画と次期総合戦略の一体化について 資料4 地域再生計画(汚水処理施設整備推進交付金)の評価について 資料5 総合戦略に掲げる数値目標及びKPI(初期値・現状値・目標値)一覧 資料6 総合戦略主要事業進捗状況 資料7 日進市総合戦略総括報告書(案) 資料8 企業版ふるさと納税資料

	1 開会
	2 委嘱書交付
	3 市長あいさつ
	4 自己紹介
	5 委員長選任、委員長職務代理指名 (委員の互選により鶴飼委員を委員長に選任、委員長が山田委員を委員長職務代理に指名)
	6 諮問 (市長から諮問書を手交) (傍聴者入室)
	7 議題
委員長	議題(1)日進市人口ビジョン及び日進市総合戦略について、説明をお願いします。
事務局	(資料1、2、3に基づき説明)
委員長	改めて、総合戦略がどのような役割を持っているのかについて説明いただきました。この段階で、ご意見ご質問はありませんか。
委員	(意見なし)
委員長	議題(2)地域再生計画(汚水処理施設整備推進交付金)の評価について、説明をお願いします。
説明者	(資料4に基づき、事務局、環境課、下水道課から説明)
委員長	議題(2)について、ご意見ご質問はありませんか。
委員	下水道整備によって、具体的に本市の水質汚濁の状態がどうなっているのか、データがある方がわかりやすいと思います。下水道に流さずにそのまま生活雑排水を流しているお宅を見かけます。それが最終的に水質汚濁に繋がると思います。
環境課	環境課で毎年河川の水質調査を行っているので、データとして出すことは可能です。
委員長	計画期間内において整備が進んだことがわかる数字の変化があった方がわかりやすいというのがご質問の主旨だと思います。
環境課	各年度の河川の水質調査の結果について説明します。市内では10か所で定点観測をしております。その中で、天白川には環境基本法に基づく基準が定められており、3地点で観測しています。計画期間内において、基準を超えることはなかったということ、数値には大きな変動がないということが結果となります。一般的な水質汚濁については、BOD(生物化学的酸素要求量)という数値が使われますが、BODについても、計画期間内においてあまり変動がなかったという結果です。
委員	変動がないとはどのように理解すればよいのでしょうか。

環 境 課	BODは基準値として5.0以下となっており、調査した結果は2.0から3.0の間を動いています。
委 員	基準値以下だから問題ないということではなく、日進市が一生懸命事業に取り組んでいるのであれば、それなりの結果が数値で表れてもいいのではないかと考えています。そして結果に対してどのように解釈しているのか、単純に○×の判断で施策を展開しているのか、どこかに何か問題があるのか、ここをしっかりと分析しないと、10年後、20年後に良い日進市を作る為には、具体的な活動ができないのではないかと心配しています。
委 員	10か所の観測地点があるということで、その全てで基準値以下だということはわかりました。それでは複数の地点での推移を見たときに、その推移が悪化している地点が何か所で、改善している地点が何か所かというような、数値で増減を見ることは可能ではないかと思えます。いかがでしょうか。
環 境 課	BODの10か所の推移について説明させていただきます。平成26年と平成30年を比較しますと、数値が悪化したところが7か所、改善したところが2か所、変動がなかったところが1か所という結果となります。天白川においては、環境基本法に基づく基準が存在し、その3か所については基準値内であると先ほど申し上げましたが、そのほか7か所については水量が少なくBODの値が悪く出てくるところもあります。この地点で天白川の基準を用いた場合、基準値以上になるところが1か所あります。増減について見ると、およそ0.3や0.5といった少ない変動のため、あまり変わっていないと申し上げた次第です。
委 員 長	この場で評価しなければいけないことは、流域の範囲の中の状況の変化であろうと考えます。今、説明のあったものが、市内10か所の各地点における水質汚濁状況の変化であるという理解でよろしいですね。
環 境 課	その通りです。
委 員	活動にフィードバックできるような数値が必要であると思えます。良いところはきちんと評価して次に繋げる。悪いところは速やかに反省して次の新しい活動に繋げていく。天白川は大切にしなければならない地域の財産だと思います。その観点で非常に重要なテーマだと思います。流量が少ないからだけではなく、流量が少なくなっている原因や、流量が少なくても水質を改善することが大事だと思います。自分たちのふるさとを次に繋げるという観点で取り組んでいただきたいと思えます。
委 員 長	おそらくしっかりとしたデータを取っていると思いますので、それをどのように公表していくか、そしてどういう意図で公表していくかというところの重要性をご指摘いただいたということです。すでに行われているのかもわかりませんが、一般の人には伝わりづらいということだったのかもわかりません。その点も含めて、今後検討してください。 私からですが、資料4の2ページにある施設整備の整備箇所図や1ページ

	<p>の地域再生のイメージで、浄化槽（個人設置型）の色分けされた部分が浄化槽対象区域であるという理解で良いのかということと、この中でどの程度、普及が行われているのかの数値がないので、わかりにくいです。先ほどの委員の質問は公共下水道ではなくて、合併処理浄化槽を整備していない家庭における処理の在り方に関わってくる可能性があります。浄化槽対象エリアの合併処理浄化槽の普及率がどうなっているのかということが、懸念材料になると思います。</p>
下水道課	<p>人数ベースで説明させていただくと、市民全体の13%程度が合併処理浄化槽を使用しています。</p>
委員長	<p>下水道整備がそぐわない地理的条件となるところが浄化槽対象エリアということですね。</p>
下水道課	<p>公共下水道を整備している地域は基本的に下水道に繋いでいただきます。公共下水道でない部分は、各家庭で単独で処理しているところもありますし、団地によっては集中浄化槽として処理をしています。これら全てを含めて13%という割合です。</p>
委員長	<p>合併処理浄化槽になっていない方の割合などはわかりますか。</p>
事務局	<p>補足ですが、資料にある汚水処理人口とは公共下水道、又は合併処理浄化槽を使用している方を合わせた人数で、その普及率の増加が目標となっています。浄化槽には合併処理浄化槽と単独処理浄化槽があり、合併処理浄化槽はトイレの汚水と生活雑排水を処理するものです。単独処理浄化槽はトイレの汚水のみを処理するものです。生活雑排水にはキッチンやお風呂などの洗剤が含まれており、それらを直接、公共用水域、いわゆる河川に流すと水質が悪化するので、生活雑排水も処理をする合併処理浄化槽の設置が平成14年度から義務付けられています。ただし、それ以前に建てられたお宅では、汚水のみを処理する単独処理浄化槽が使用されている場合があります。単独処理浄化槽を使用している家庭では、生活雑排水がそのまま河川に流れてしまいます。この状況を改善するために、公共下水道の整備を進めています。しかし、公共下水道は非常に事業費がかかるため、人口が集中しているところでないとな採算が取れない事業です。人がまばらなところにも下水道を整備することは効率的ではないため、今回の計画では公共下水道と合併処理浄化槽を増やして公共用水域の水質を改善していくという内容になっています。計画を策定した当時、汚水処理人口普及率は82.9%となっていたため、おそらく17%程度が単独処理浄化槽等を使用していたと思われます。現在、最終実績は90.8%となっており、目標を達成しております。日進市の公共下水道は平成元年から北部浄化センターを作って整備を始め、平成16年には南部浄化センターを作って整備をしており、公共用水域の水質はかなり改善されている状況にあります。</p>
委員長	<p>残り約10%が未整備の状況であるということですね。</p>

委員	<p>今回は評価ということなので、その所感を申し上げたいと思います。汚水処理人口普及率の増加、水生生物調査等の河川愛護活動への延べ参加者数の2つが重要な指標として設定されています。まず、汚水処理人口普及率の増加は目標を達成しているという話ですが、この数値と目標が適正なのかという部分を評価しづらいです。例えば、日進市がベンチマークとするほかの地域があれば、その地域がどのくらいの水準で推移しているのかなど、比較できる参考情報が増えることで評価しやすくなると思います。また、河川愛護活動への延べ参加者数が非常に多いことは大事であると思います。2つの目標が達せられたものと私は評価していますが、今回、国の補助金を使っているということもありますので、大事な経験を今後どう繋げていくのかということをご検討いただきたいと思います。3ページの「計画外で独自に実施した事業」の欄に、平成30年度以降もこの成果が継続するようなプランや青写真のようなものを検討したということが入ると、なお良いのではないかと思います。どういうことかと言いますと、今回のプロジェクトタイトルが「創ろう！ふるさと天白川源流水環境再生計画」となっており、あえて「ふるさと」を平仮名にして「創ろう！」という表現に込められた思いがあると思います。河川愛護活動への延べ参加者数がどのような参加状態になっていて、その参加者がどこまでの成果を出している、これから先に進むためには、このような活動も大切であるということが見えてくると、この計画が日進市にとって将来の発展に資するものであるという証明になるのではないかと思います。</p>
委員長	<p>将来にわたって持続可能な状態を続けて行くための重要なご指摘だと思います。本日の時点におきましては、今回の目標値に対しての効果というところについて、数値で押さえられる範囲においてどのような結果が出ているのかという確認によって、審議をし、結審したいと思います。地域再生計画の評価については、今の説明を踏まえて良としてよろしいでしょうか。</p>
委員	(異議なし)
委員長	<p>それでは議題(2)は結審となりました。 続きまして、議題(3)日進市総合戦略に掲げる数値目標及びKPIの現状値について、説明をお願いします。</p>
事務局	(資料5に基づき説明)
委員長	<p>同じ内容が議題(5)で出てきますので、深い審議ではなく数値を確認していただくということで、議題(3)は終了させていただきます。続きまして、議題(4)主要事業の進捗状況について、説明をお願いします。</p>
事務局	(資料6に基づき説明)
委員長	<p>質問などについては、次の議題(5)で合わせて時間を取りたいと思います。それでは議題(5)第1期日進市総合戦略の総括について、説明をお願いします。</p>
事務局	(資料7に基づき説明)

委員長	事務局の説明について、先ほどの資料も合わせて質問、ご意見があればお願いします。まずは質問、そのあとにご意見をいただきたいと思います。
委員	基本目標1について、日進市の人口の流入流出に関しての質問です。日進市総合戦略には、豊田市からの流入が多く長久手市への流出が多いという記載がありますが、それに対する分析はされていますか。分析の結果によって、何か施策や新しい展開が必要なのではないかと思いました。
事務局	転出転入につきましては、平成27年当時は長久手市への流出が非常に多かったのですが、現在では瀬戸市への流出が多くなっているという状況です。分析はしておりませんし、また、複雑な要因があると考えられるため、分析しても原因が判明するかは難しいところです。一因として、土地がより安価で暮らしやすい場所に皆さん引っ越されるという状況があります。日進市は近年、土地の価格がかなり高くなっておりまして、近隣市町と比較してみると名古屋市よりは安いですが、ほかのまちよりは高いというような状況もございますので、そういった状況から外に出られている方が増えているのではないかと考えているところです。
委員	長久手市への流出が多いということはどのように考えられていますか。地価でいうと長久手市の方が高いはずですが。あえて長久手に出られる理由は何かあるんじゃないかなと思います。いわゆる都市の魅力という観点からいかがですか。
事務局	長久手市は藤が丘駅に近く、リニモの駅ができて東西の交通という意味では非常に便利なまちとなっています。また、ジブリパークができるモリコロパークがあるということで都市公園の一人当たり面積が日進市と比較すると大きいです。緑も非常に多いまちであり、日進市とも似通った性質のまちです。しかし、なぜ長久手市に多くの方が流出しているかということについては、そこまでの分析には至っていないという状況です。
委員	そういうところにヒントがあると思います。
委員長	有用なご意見で、おそらく今まで人口の移動の状況を把握していたけれども、その原因というところまでの検討はされずに来たというようなところが課題なんだと思います。次回の戦略を立ち上げる時には、重要なファクターになるということですね。ありがとうございます。
委員	先ほどおっしゃった数値目標の「安心して子育てできる環境」ということにつきまして、それ以外のところでもお話しされた経済的な困窮も一つの環境として捉えている可能性があるのかなということを思っていました。大事なことは要因を把握することだと思います。どのように調査しているのかわかりませんが、要因を把握したうえで分析をすることが大事で、そうでないと数値目標の数値に踊らされてしまいます。それよりは、現状を分析して、次への対策を講じることが大事で、そこを踏まえれば、なぜちゃんと施策をしているのに数値目標が届かないのかということも見えてくるのではないかなと思

	<p>いました。これらを総合的に踏まえて行う評価が総合評価なのだと思います。</p>
委員長	<p>先ほどの委員の意見と極めて近い意見ですが、おそらくこれは当初から本当にこの指標でいいのか、あるいはこの KPI でいいのか、さらには欲しいと      いていた数値が実際はなかったりというようなこともあったりと、実は計画する段階で指標に対する考え方というのがあまり明確に検討されなかった      んだろうと思います。これは大きな反省材料なんですけど、まずはこれで6年間      やってみて、その実績を踏まえながら PDCA サイクルを回して改善していく      というのが大変重要だろうと思います。そのような意味で基本目標1の総合評      価で記載されているように、実は KPI や主要事業にもあがっていない理由を      書かれているわけです。本来であれば、例えば、歩道や道路に対する満足度が      低いということであれば、その整備状況であったり歩道の作り方というのが、      実は「次世代を支えるまちを創生する」と極めて高い相関関係があるのかもしれ      ません。今、一例で言っただけで、おそらく今回、見直す第2期のものを作      っていくにあたっては、改めてどの数字とどの数字の相関関係が高いのか、と      いう視点で検討してみないと、本当の意味での KPI や目標値の設定に向かっ      ていけないのではないかと思います。また、市民意識調査は重要な      調査だと思いますが、対象者が毎回変わることも含めて、必ずしも定点調査に      ならないし、主観も相当入ります。本当に市民意識調査が目標数値として適切      なのかということも含めて疑問を持ち、改めてしっかり検討したほうが良い      と思います。今後検討するポイントという視点で申し上げました。</p> <p>ほかにご意見ご質問はございませんか。</p>
委員	<p>(意見なし)</p>
委員長	<p>今日が完成ではないので、ご意見を踏まえながら次回に向けて再検討する      ポイントがはっきりしたと思います。</p> <p>それでは、事務局からそのほか何かありましたら報告をお願いします。</p>
事務局	<p>(企業版ふるさと納税について、資料8に基づき説明)</p>
委員長	<p>何かご意見ご質問はございませんか。</p>
委員	<p>(意見なし)</p>
委員長	<p>それでは事務局へ進行をお返しします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。本日いただいたご意見などを参考に、今後の施策      に繋げていきたいと思っております。</p>
	<p>閉会</p>